

令和4年10月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	令和4年10月25日(火)		
2 開会及び閉会	開 会	14時00分	
	閉 会	14時51分	
3 出席委員	教 育 長	三 宅 泰 司	
	委 員	河 内 智 美	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	上 西 芳 樹	
	委 員	片 山 美 香	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	後 河 正 浩	教育次長	奥 橋 健 介
次長(教育総務部長兼務)	疋 田 洋 一	学校教育部長	谷 岡 哲 郎
生涯学習部長	道 広 浩 章	教育企画総務課長	寺 坂 芳 子
指導課長	西 山 径	生涯学習課長	上 野 喜 宣
教職員課課長補佐	高 井 紀 行	教育研究研修センター所長代理	八 木 信 英
岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課課長補佐	目 黒 恭 広	保健体育課課長補佐	長 谷 井 利 之
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	井 本 浩 行	事務局 (教育企画総務課主任)	大 原 順 子
5 議題及び結果			
	なし		
6 教育長等の報告 [令和4年9月10日(土)～令和4年10月14日(金)]			
9/20	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
9/21	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
9/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
9/28	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
9/29	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
9/30	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
10/1	自然体験リーダー養成講座 STEP1	地域子育て支援課	
10/5	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	
10/12	子どもが輝く学びづくりプロジェクト(公開授業)	指導課	

7 議事の概要	
教育長	○ 10月岡山市教育委員会定例会を開会する。 本日は、傍聴希望者が1名いらっしゃる。 入室してもらってよろしいか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ それでは入室をお願いします。 日程第1、会期について、本日1日限りとしてよろしいか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ 日程第2、9月定例会議事録については、少し時間を要しているため、次回の定例会でお願いしたいと思う。 それでは、日程第3、教育長等の報告について。 まず、事業報告をご覧になって、何かご質問等あるか。 事業については、行事の後に説明いただきたいと思う。 まずは行事について、何か質問はないか。
河内委員	○ 子どもが輝く学びづくりプロジェクトをいろいろな学校で実施されているが、特色ある取組などがあたらご説明いただきたい。
指導課長	○ どこも4年サイクルで回している3年目に当たる部分であるので、年度当初からどの学年のどの教科を公開するかを決めてやっていただいている。小学校は国語、算数が多くて、中学校の場合、今回は数学と保健体育。特色と言えば、今回竜操中学校が道徳を公開している。昨年度から集中的に道徳に特化して研究していきたいということで、また来年度も続けてしたいと言っている。全体的に学校も落ち着いてきていて良いと校長先生も言われていた。
教育長 片山委員	○ ほかにあるか。 ○ この学びづくりプロジェクトの中で校種間の交流が実施されるのではないかと思うけれども、コロナ禍の影響は少しずつ緩和されて、対面での交流というのが少しずつまた開始されつつあるのか、そのあたりの校種間、違うところの交流や実践の状況を教えていただければと思う。
指導課長	○ 今年度からコロナの感染対策のレベルが1のままなので、実は1学期から広く広報して、参加できる人はどうぞとしているけれども、やはり実態として中学校区を越えて見に来られるのは少ないかと思っている。ただ、中学校区内での幼・小・中の連携はしっかり取れるようになってきているし、授業も普通教室で公開していただいている学校もあるけれど、たくさん来られて密にならないように体育館でしたり、多目的室という大きめの教室で公開していただくような形で、従来の学プロの授業に戻りつつあると考えている。
教育長	○ そのほかあるか。 自然体験リーダーについて、説明はあるか。
地域子育て支援課 課長補佐	○ 今年度も、日帰りで10月1日にSTEP1、それから15、16日にSTEP2、29、30日にSTEP3という3段階に分けて実施している。初日は、リーダーになるためには、まずは自分が楽しもうということで、それぞれの参加者に楽しんでいただけるような30分程度のアクティビティを7つぐらいやっていただいている。15、16日には安全講習、29日には小学生20名ほどを呼んで、実際に考えたプログラムを受講生の方に指導していただくことを計画している。今週の29日に小学生20名に体験をしていただき、30日に終了する予定である。
教育長 全委員 教育長	○ 行事についてはよろしいか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、続いて事業の報告を。新教育研究研修センター（仮称）の整備の考え方についてご説明をお願いします。
奥橋教育次長	○ では、先日の協議会の場では9月議会のご報告ということで、新たな教育センターについて少しお話をさせていただいたところだが、本日は新教育研究研修センター（仮称）の整備の考え方ということでご説明をさせていただいて、この後

議論をお願いしたいと考えている。

では、資料に沿って説明をさせていただく。

まず、1枚めくっていただいて1ページ目である。

移転整備の必要性ということだが、イラストの吹き出しにもあるように、現在、教育現場というものは家庭環境の変化であるとか学力、問題行動、不登校等やその対応、またデジタル化の流れ、そして全国的にも問題となっている教員不足、そういった背景の中、日々の業務を学校で行っているという状況である。

実は政令指定都市移行後の平成23年になるが、このとき岡山市の教育に携わるセンターとして、現在の岡山市教育研究研修センターが西大寺公民館に移転された。当時は石井小学校内にあったのだが、その移転のときに立地条件とか施設、機能といった面でそれで良いのかということも議論されてきた。その後も折に触れ、教育の育成に直結する教育センターとして役割とか機能といった面で本当にそこで良いのかということはこの委員会でも話題になっていたところである。

教育現場というものは、1ページの(1)から(4)にあるように、一つは教員を取り巻く環境の大きな変化や、またデジタル教科書等の活用など新たな課題が出てきていること、そしてここ数年の急激な年代の構成の入れ替わりによって教員の年齢構成が若返っているということで、その対応を考えていくと、現教育研究研修センターの立地、施設の物理的制約がネックとなっている状況である。

先般、衆議院の予算でも話題になったということで右側に資料として載せているが、そのように環境が大きく変化している現状である。

次の2ページ目をご覧ください。

では、センターが今後どういった役割を担う施設であるべきかということで、そこに今の課題認識と今後の考え方を載せているが、課題は先ほどと重複するが、デジタル技術の進展、いまだなかなか収まることのない問題行動や不登校児童・生徒への対応、また最近特に話題になっている就学前の幼児教育と小学校との円滑な接続、また地域というものを考えたときに、社会教育ということでいえば、社会に開かれた教育課程の必要性等々、今大きな課題をもっているところである。

岡山市の場合は、2ページの(2)にあるように、市民協働による自立に向かって成長する子どもであるとか、自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもの育成に取り組んでいるところであるが、その実現に向けて、情熱、力量、人間力を有した学び続ける教職員を目指す教職員像として、今育成指標を定めて、教職員の成長段階に応じた資質の向上に取り組んでいるところである。ただ、これからの子どもたちを取り巻く急激な環境の変化に的確かつ迅速に対応するためには、岡山市の教育研究研修センターは、教員の担い手を育成する新たな拠点として研究・研修の拠点的な施設にしていかなければならないと強く感じているところである。

次、めくっていただいて、新しいセンターにどういったコンセプトをもっているかというイメージであるが、そこには大きく4点、一つは、幼児教育・保育との連携。小学校の教育段階に円滑に接続していくことに今後研究を進めていくべきであろうと、そんな施設にしたいという思い。また、新しくいろんな問題を抱えている中で、大学との連携、研究も今後しっかり最先端で行っていく必要があると。そういう施設を目指したい。そして、当然基礎的な読解力や数学的思考力、情報活用能力などを育成するために必要な研究・研修をしていく施設にならなくてはいけない。そして最後に、社会教育としっかり結びついて、地域を大きく育てていく、そういったことも担っていくべきであろうということで四つがある。それらの活動に係るものとして、この施設が教育総合情報センターとしての機能を果たすことも今後大きく求められるところだろうと考えている。そういうことを含めていくと、矢印の下側に書いている、子どもや保護者、学校、地域、大学等をつないだ教育の研究・研修、そして就学前支援、情報集積・発信のハブとなる施設を岡山市につくっていきたいと考えているところである。

	<p>最後に4ページ目に、整備事業のアウトラインとして二つ挙げているが、一つは施設の整備方針である。この施設をつくるに当たっては、岡山市が実施主体となっていくということ。ただ、必要な用地等については、そこにも挙げているように、形状、または他の道路との接続、大きくいえば市の諸計画との整合性。教員は自動車を使うことから利便性、または大学との連携、そういったものを踏まえながら総合的に決定していかなければいけないと思っている。施設については、公共施設等のマネジメントに関する基本方針にのっとりながら、整備コスト等に配慮しつつ、先進性・多機能性を備えた施設を目指していきたいと考えている。また、ICTの活用や、当然環境等を考える中で脱炭素にもしっかりと配慮された最先端の施設にとも考えているので、よろしくお願ひしたいと思う。</p> <p>今後のスケジュールについては、今年度中に基本方針等を作成する中で、来年度から工事に入り、そして令和8年度に供用開始を目指して進められたらと今は思っているところである。</p> <p>簡単ではあるが、資料の説明である。</p>
教育長	○ 事業についての報告があった。
上西委員	ご質問でもご意見でもいいのでお願ひする。
奥橋教育次長	○ 1ページ目のなぜ今移転整備が必要かというところで、(1)として長時間勤務やそういった教員の職場環境の厳しさを第一に挙げられているところで、それに異論は全くないけれど、その後の例えば3ページ目のコンセプトイメージ、ここに書かれていることも全く異論はないのだが、先ほどの教員の方の環境の厳しさというところを一つ移転の根拠としつつ、新しいセンターがその問題点をどのように解消していけるのかというつながり、移転の理由と新しい設備、施設のそのコンセプトとのつながりをもう少し何か説明できると良いかなと感じた。
教育長	○ 確かにセンターとこの長時間勤務と、一見分かりにくいところがあると思うが、教育の根本は子どもをいかに育てていくかという中で、国会などで議論されている中にもあるが、いかに先生の力量を高めていくか、また子どもたちの前に、先生をいかに元気づけていくかということが必要になってくる。ただ、OJTと言われている、学校の中で受け継がれる、伝承されるものが、今の職員の構成から考えるとなかなか難しい。学校の先生は、大学を出てすぐ担任になってしまうというケースから考えると、ここの部分に手を加えないと子どもの教育をきちんと保障していくことに結びつかないところがある。一見、学校の先生の働き方が云々と見えるけれども、実は根本のところを言うと、いかに子どもにきちんとした教育を、力を付けさせるかということになるので、ここの部分、未来へしっかり投資しながらここを重点的にいきたいという思いがあり、まずこの課題として必要性を挙げているところである。
河内委員	○ 単純に言うと2点あって、若手が増えた中で、やはり教材研究などが学校だけでは難しい面があって、そのOJTを研修センターでもうちょっと手厚くできないかというのが1点と、それからやっぱり教員不足があり、もう国のレベルで教員が足りていない。奪い合っても仕方がないが、岡山市にこのようなセンターができると、そこに憧れて来る方も増えるのではないかと、大きく言うと教員確保と教員養成、その2点がこの一番の答えというか、そこを何とかしたいという願ひは我々もっているところである。
	○ 今お聞きして思っただけだが、その教員の長時間勤務ということで、非常に長時間勤務せざるを得ない要因の一つに生徒指導の問題があると思う。生徒指導のいろんな対応をしなくてはならない。問題行動がたくさんあって。そこが、例えば授業の中で、授業というのが単なる教科を教える、学ぶ場ではなくて、生徒指導する場だと。つまり生徒指導の一番の役割は、子どもたちが自信を付けたり自尊感情を抱いたりして、そして自分の生活を自分で切り開いていく力となると、授業の中で活躍したり、分かった、楽しい、そういう授業を行っていくことが生徒指導の課題を減らしていく、そこと結びついていると思う。そうすると、センターの機能の中に特別支援の面や、それから生徒指導の面など、そういう一

奥橋教育次長	<p>人一人の子どもたちの抱えるいろんな課題を、授業の中でうまくその子の自尊感情を付けるような指導の在り方を研究して、その教科の本来の楽しさと学ぶ意欲と両面が機能した授業をつくり出していき、そういう研究をしていくことが、長時間勤務解消にもつながっていき、またひいては教員のやりがいにもつながっていきのかなど。何かそういう気がした。</p>
教育長	<p>○ まさにおっしゃるように、本当に分かる授業ということを言われている中で、子どもが授業を分かり出すと、例えば教室を出る現象も少なくなるし、落ち着いて教室の中にいて一日を過ごすことにもつながっているということもあるので、そういったことも含めて、今まで学校の中だけで取り組んでいたものを、センターを利用しながら、大学等の高等教育機関ともしっかり連携を深めながら、いかに今の時代に合った授業ができるかを当然進めていかななくてはいけないと思う。</p>
石井委員	<p>○ 河内委員のおっしゃるとおりで、私も指導主事のときに特別支援をやっている授業を見に行ったときに、教科の専門の主事と私と2人で、特別支援の観点と授業の観点でその改善を求め、大分先生の対応が変わった。勝手にチャレンジしたようなこともあったけれど、今そこが大事かもしれない。そこでいろんな課題の歯車が回って改善していくというのは、今のお話を聞いて私も何か光が見えた気がしたし、大学との連携も、そこで研究されていることを学校で挑戦してみるのが良いのではないかと個人的には思う。</p> <p>ほか質問はよろしいか。</p>
教育研究研修センター所長代理	<p>○ 今お話をお伺いして、企業の場合は新入社員が会社に入っていくなり1人で営業に出ることはなくて、学校の先生だけいきなりそんな状態になるのはよく話題になる話で、そういう意味で若手の先生方の研修の場は非常に大事だと、企業で働いていても思う。研修が大事だということは分かるが、建物がどれだけ大事かということ。今デジタルでいろいろ勉強もできる時代になっているので、やはり大いに活用していただきたい。多分今の大学生は全部オンライン授業だった人たちがたくさんいて、意外と効率が良いとか、倍速で聞けるから速いとか、そういう良さももちろんたくさんあると思う。行かなくて良いということもあると思うので、そういう面もぜひ並行的に活用いただきながら、ただやはりそれだけだと孤立してしまう先生とか、もしかしたらそういうケースもあるかもしれないので、情報交換ができる場として会える場所があることは大事なのかなと思った。その中で資料1ページに年間約270回の研修とあるが、これはイメージがまだ湧かない。先生1人に戻したときに何回ぐらい研修センターに行くのか。270回といったら1人1回か2回か、行かない人がいるのか、そのレベルでそこまで大事な研修が本当にできるのかとも一方で思う部分があって、広さが今ネックになっていると書いているけれど、新しいセンターは広くはなさそうな感じもするので、そのあたり今の先生方は1人当たりでどれぐらい利用されているのか、また広さについてももう少しお話していただきたいと思う。</p>
教育長	<p>○ 先生方によって来られる回数は様々である。例えば初任者が必ず受ける初任者研修は、今年度は16回必ず来て研修をさせている。それから、2年目の先生や3年目の先生は年間3回来なさいという研修がある。本当に先生方で様々である。それから、役職によって、例えば体育の担当者は必ず来なさいとか、研究主任は必ず来なさいという研修もあったりもする。それらを合わせてトータルで270講座ぐらい今年はやっている。</p>
教育研究研修センター所長代理	<p>○ 初任者が全員来たら何人ぐらいの研修になるか。</p> <p>○ 130人を超える。</p>
教育長	<p>○ 最大ではどうか。</p> <p>○ 最大は、小学校と幼稚園の連携講座で、認定こども園や私立幼稚園も含むと210人。</p>
教育研究研修センター所長代理	<p>○ 今の西大寺にはその部屋はあるのか。</p> <p>○ ない。</p>

<p>教育長 教育研究研修センター所長代理 教育長 後河教育次長</p>	<p>○ 次に建つ予定のところはそれを求めたいということか。 ○ そうである。</p> <p>○ だから、今より広がる予定の想定だと思う。 ○ 今ご指摘があったように、当然その次の世代ということなので、今ICTのお話もあったけれども、実際現場にもどんどんICTが入っていくし、就活生や教員を目指す生徒から見れば、石井委員のご指摘のとおり、そういう環境の中で育ってきている人たちなので、その良いところは当然反映させていく必要があると思っています。</p> <p>もう一つは、やはり行政がやることであるので、財政制約もある。その中で無尽蔵に広げればということにもならないので、他都市の類例なども参考にしながら、必要な集合研修、対面型で実際授業にも関わる、人と人が向かい合ったときにどうかということも非常に重要だと聞いているので、そういったところを含めて集合研修に対応できるような広さも最低限当然必要だろうし、あるいは科目別にいろんな、実際にシミュレーションができるような環境も当然必要になってくるということで、これから詰めてはいくけれども、4ページに記載しているように、大体おおむね3,300から3,500㎡ぐらいの間が一つの目安だと今思っている。</p>
<p>教育長 教育研究研修センター所長代理 教育長</p>	<p>○ 今回の建物は600㎡ぐらいかな。 ○ 800㎡。</p> <p>○ 今800㎡か。ちょっとイメージが湧かないから、どちらが大きいかなと思って。</p>
<p>石井委員 教育長</p>	<p>○ 単純に皆さんが1回ずつ来るということではなくて、若手の方が安心して学べる場ということなのか。</p> <p>○ 法定研修が決まっていて、あとは選べる研修にしているので、学期1回とか、夏休みに集中して皆さん来られたりしている。出ることが多くても負担になるので、そのバランスを見ながら上手にやっていると思う。</p> <p>それから、石井委員が言われたとおりで、私もリモートと対面のバランスがあると思うので、どちらも良いところも課題もあるので、リモートだけで良いということにはならないので、対面の良さを生かしながらやっていかないといけない。でも、リモートも活用するのはコロナでみんな慣れたので、バランスを見ながらと思う。</p>
<p>片山委員</p>	<p>○ ほかはよろしいか。</p> <p>○ 幼児教育に関連する者としては、ここに幼児教育・保育との連携という形でコンセプトの第1番目として入れてくださったのはすごくありがたいことだと思う。</p> <p>1点、まず円滑な接続と書いているけれども、その円滑な接続ということが一体何を意味するのか、その円滑である接続の中身が岡山型の円滑な接続、例えば子どもが不安なく行けることだけではないと思う。例えば、小学校という今までと違うところに行く段差があることが、ある意味憧れとか違いがあるからこその良さという部分もあると思うので、なだらかになるとか抵抗が少なくなるとか、もちろんそういうことだけではないと思うけれども、その円滑な接続という言葉が含まれる質的な内容が、具体的になっていったら良いなど。だから何なのって言われると今すぐ全部言えるわけではないけれども、例えば学校教育の在り方と就学前の教育の在り方というのはやはり目指すものや方法論が全然違って、なかなか遊びを通しての指導など、そういったことが理解してもらいにくい部分もあるかと思う。そのあたりが職員間で理解し合えるような、教育の在り方の違いを理解し合いながらその接続に向けていくことで、何がお互いに分かり合えることなのか、そのあたりの職員の研修の大事さ、その円滑な接続をするための子どもの教育もだけれど、職員間でお互いの教育の質を分かることが大学でもなかなか</p>

	<p>できにくい部分があるので、そういったところが校種間の違いを意識する、分かるという、だから今の自分が担当する幼児教育・保育の部分では何が独自性としてできるのかとか、そういったことは何か教育の研修の中で理解できることがまたその円滑な接続につながるのかなと感じた。ぜひそういったことが発展していければありがたいなと思った。</p> <p>それから、もう1点、先ほどICT、いわゆるオンラインと対面とのハイブリッドの割合が大事とおっしゃっていたけれども、やっぱり幼児教育・保育の現場は社会で言われているとおり保育者不足が大変喫緊の課題で、なかなかその1人の職員が研修に行くことがものすごく難しい。じゃあ、リモートでできるかという、恐らく子どもたちがお昼寝をしている、こども園だと午睡の時間が一つの空き時間だと思うけれども、そうなるとう度は今の義務教育ほどパソコンが十分に配置されていないとか、ネット環境が不十分であるとか、そういったハード面の幼児教育・保育の現場の整備も併せて、より効果的な研修を実施していただくためには、義務教育に特化されていた部分を就学前も含めてそういった環境整備を考えていただくと、多分こういった研修の意義や、そういったものに乗っかっていける人が増えるのかなと思った。</p> <p>それからあと最後にもう1点、今後若手の確保とか教員採用試験に良い人がたくさん応募してくれるためには、大学での学びと、現場に出てからそれまでに見えなかった業務のギャップがすごくある。理想的な授業や理想的な保育についてはたくさん収集していくけれど、それを実現するための時間外の雑多な仕事のさばき方や、現実的な保育者とか教師としての過ごし方がなかなか見えにくくて、結構早期に退職、離職してしまうことが問題かと思う。なので、せっかく期待をもって、そして意欲をもって採用してもらった人材が良い授業や良い保育プラス、現実をさばいていく実践的な力を付けていくためには、やはりそういったことを先輩方がどうされているか、授業以外の部分の時間のさばき方やマネジメントの仕方などを学ぶために、大学生の時代からその予備軍的に研修センターに通って現場の先生方から学べ、そこから接続し連携ができる研修センターになってもらえたらすごくありがたいと思った。</p>
教育長	○ 幼稚園の授業はコロナでなかなか行けていないけれど、小学校の先生も中学校の先生も幼稚園へ行って、授業を見て勉強した覚えがあるが、その点は今どうであるか。
指導課長	○ 先ほど申した子どもが輝く学びづくりプロジェクト「学プロ」で、必ず小学校の先生、特に低学年の担任をされている先生には、時間を取っていただいて、学区の幼稚園が公開するときに見に行っていたくようにしている。特に幼稚園からの要望としては、せっかくここまで育てた、レベルまで上げたのに、小学校1年生に入った途端にまたすごく幼稚なところからスタートする。いわゆる不要な段差、ここに書いている円滑な接続はそういう意味に取っているが、その不要な段差をなくすための岡山型一貫教育だと思っているので、幼小の先生が特に中学校区でしっかり連携を取っていただくのが大切かなと。先ほど教育長が言われた体験、幼稚園の子が隣接する小学校によくお試しのような形で体験に行くときに小学校の先生と幼稚園の先生がよく連絡を取っている話はお聞きしているところである。
教育長	○ ほかに補足はあるか。保育現場の関係は岡山っ子になってしまうけれど、この機に連携をいろいろしても良いのではないか。
奥橋教育次長	○ 委員がおっしゃったように、就学前も保育園、こども園、幼稚園がある中で、それぞれ役割が異なっていることから、この中でもなかなか職員の意識がそろわないということも聞いている。我々も小学校と中学校、もともと文化が違うということで片づけていたところも、今指導課長が申したように、いろんな関わりを通してだんだん分かち合う、お互い知り合うということもあるもので、確かにこのセンターの役割がそのような役割の一つになっていくのは非常に大きいし、今おっしゃっていただいた教員不足で志願者が減っている状況の中で、大学の頃か

<p>後河教育次長</p>	<p>ら、学生の頃からの関わりは非常に重要なありがたいヒントをいただいたように思うので、このあたりもしっかり深められる施設にしていけないといけないと改めて感じたところである。また、ハード面についても、こちらでも考えられることだと思う。</p> <p>○ 今ハード面のお話で、ICT環境が整ったとしても、そういう活用もできるという話だと思う。今どういう形になるかは別にしても、いろいろ方法論はあると思っている。今後煮詰めていく必要があるけれども、例えば高校とかの教育現場であればBYODということで、ご自身の、個人のスマートフォンを活用することも検討されている。当然学校や園の現場でWi-Fi環境が整っているという条件は必要だと思うけれども、実際そういうコンテンツを提供できるように知恵や工夫を出していく。本当に日常的に活用できる状況がないと空いた時間にどこか部屋を移ってというとなかなか現実味もないところもあるので、そのあたりは工夫が必要かと思っているし、課題認識ももっているので、今後しっかり対応できたらと考えている。</p>
<p>教育長 河内委員</p>	<p>○ そのほかお気づきの点はないか。</p> <p>○ センターにずっと携わってこられた方々や、学校の先生方にとって本当に長年待ちに待ったプロジェクトがいよいよ第一歩を踏み出すんだなと思ってすごく感慨深い。いろいろ声を出してくださったけれど、一体研究とは、センターの本当の役割、何を研究するのかがイメージできない。先ほども言われていた幼・保のことも、それから公民館との連携とかいろんなことも、結局事務局の中で指導課や生涯学習課などが担われることと、それから新しいその教育センターが担うこと、これをきちんと仕分しないと、何でもかんでもここに盛り込んで夢を語るのには良いけど、ただ夢だけじゃなくて、もっと現実的に研究って何をするのか、大学との連携で何が深まるのかが見えない。</p> <p>ちょっと思い出してみたが、評価委員会で高旗委員さんが昨年度だったか、教育センターの機能の充実について毎年言われていて、それで研究開発の機能が必要だとおっしゃって、研究開発って、これも大含みな言葉だけど、カリキュラム開発なのか、何なのか。カリキュラム、例えばその研究といっても、各教科の、理科とか社会科とかそれだけの研究だけじゃなくて教育課程を全部ひくくめて、岡山市の目指す教育や付ける力などを総合的に見たときに、どういうカリキュラム、教育課程が良いのか、こういう教育課程開発をしていくべきだという部分を担うところ。それからさつき教育長が言われた、授業の中で教科の本当に魅力的な授業を進めていく研究と、それからいろんな子どもたちがいて、そういういろんな子どもたちがそれぞれ頑張れるような、意欲を持てるようなその指導の在り方をミックスしたような授業づくりに特化した研究とか、何かイメージをもってこういう部門をつくりますというものが見えない感じがした。</p> <p>資料3ページ(3)の③に基礎的読解力、数学的思考力、情報活用能力などがあるが、なぜ思考力じゃなくて数学的思考力なのか、読解力じゃなくて基礎的読解力なのか。これはどこから来たのか分からないけれども、そういうことがまだ整理されていなくて、何を指すのかということはこの機能で説明するのか、それとも機構で説明するのか。総合教育センターとしてこういう部署で、それがこういうものを担っていくという機構の概要みたいなもので説明していくのか。やり方はいろいろあるとは思いますが、そこら辺がはっきりしたら良いのかなという印象をもった。</p>
<p>教育長 河内委員 教育長 河内委員 教育長</p>	<p>○ 現時点で研究の部分は十分じゃないという反省に立ってこう書いているけれど、今言われたとおりで具体がこれからになると思うが、今のご意見を受けながら考えていきたいと思う。本庁の課は研究というよりは事業関係である。</p> <p>○ 環境整備とか。でも、指導課が出されているものがいっぱいあると思うが。</p> <p>○ 「これだけはシリーズ」がある。</p> <p>○ そういうもっと整備というか。</p> <p>○ 研究と。貴重なご意見をありがとう。</p>

奥橋教育次長	<p>○ 確におっしゃるように、センターをつくりたいという夢の中で、できたらこんなこともあんなこともいうのが盛りだくさん入って、こういうことになっていて、今お話を聞くと、確かにセンターと指導課の在り方が、もともと指導課の中にセンターがあった時代があったから、今のセンターに分かれたときにきちんと役割分担が明確になっていない線もあったので、今おっしゃっていただいたことも踏まえながら、見えやすく、分かりやすい形にまた整理していきたいと思っている。</p>
教育長 石井委員	<p>○ ほかにはないか。</p> <p>○ いろいろな課題はあると思うけれど、新しい先生方や学生の方、優秀な方にたくさん応募していただいて、入ってくる段階で良い人がたくさんいる。その上で研修するという状況から考えれば、この研究研修センターがあるというだけではあまり響いてこない。もう少し学生に対して目立つ存在にするにはどうしたら良いのかというところはちょっと違う観点で思うところがある。なので、例えば大したことじゃないかもしれないけども、この名称を新教育研究研修センターじゃなくて次世代型何とかでもなく、若者に響く名前を使うとか、あるいは企業だと職場見学会などもあるけれども、こういう場に学生の方に来ていただいて、どう安心してもらおうかという部分と、それから最先端や効率的な部分を学生たちに見せられるか、そういう場として活用されることもあったら良いなと思った。</p>
奥橋教育次長	<p>○ 確かに、いかにこの教育センターをつくることによって、当然学生もだが、岡山市の保護者や子どもたちにも安心してもらいたい、または希望や夢をもってもらいたいという部分もあるので、それらに関する工夫も考えていきたいと思う。確かに職場見学のようにセンターの見学は、考えていなかったけれど、実際先生を目指そうという人が自分たちはどんな研修を受けられるのかということはとても興味があることだと思うので、このことについてはまた、現段階でもどんなことができるのかも考えていきたいと思っている。</p>
後河教育次長	<p>○ 事務的なことだが、今お話があった名称のことは、行政的には設置条例を設けるので、条例上そんなに奇をてらったことは難しいかと思うけれども、愛称を設けるのは施設の中にもたくさんある。例えばそういう名称を現役の学生さんに考えていただくなど、やり方は幾つかある。いずれにしても成長環境というかキャリア形成に責任をもつ施設であるということで、しっかりそういう志望者、教員を目指す方々にアピールできるように、これはもう議会からもそういう指摘もいただいているので、そこはしっかりご意見も伺いながら工夫をしていきたいと思っているので、よろしく願います。</p>
河内委員	<p>○ 石井委員がおっしゃった、若い先生たちがある日突然教員になって、クラスを責任をもって任せるよと言われたときのその非常に心細い状況をサポートできるセンターになるかならないか分からないけれど、一つの方向として、例えば大学との連携の中で、徹底的に指導案を大学の先生も一緒に協力してつくってくださって自分の授業をサポートしてくれる、それは新採用の指導教員もいらっしゃるけれども、またそれとは別に指導案っていうものの基本的な作り方、授業の組立て方をその研修の日だけじゃなくてサポートできるような、そういうつながりは持てないのか。時間外とかいろんなことになってしまっただけでなかなかそれができないかもしれないけど、何とか新採用の人や、2年目、3年目とか若手の人たち、もっと言えば5年目ぐらいも、非常に授業に不安だったりする人たちに授業のサポートをして授業力を付ける、そういうサポートの体制があるというアピールができる取組がなされたら良いなと思う。</p>
教育長 教育研究研修センター所長代理 教育長	<p>○ 今教育センターでティースプーン研修をまだしているか。</p> <p>○ やっている。</p> <p>○ あれが似てる感じで、そこにどう組み合わせっていくか。大学でお願いできるのか、日数を増やせるのか、それともリモートでできるのか。ちょっと検討材料であると思う。いろんなところがどうフォローするかだ。</p>

河内委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォローしてもらえるところがあるという。 ○ 安心感であったり、あるんだろうな。 ほかよろしいか。
全委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈なし〉 ○ では、以上でこの件については、またまとまってご意見をいただく時が来るとは思うが、よろしく願います。 以上で報告案件を終わりたいと思う。 次に、議事に入る前に、会議の公開、非公開について諮る。 日程第5の報告第17号は、教育事務に関する議会の議案等について市長への意見の申出に関する事項として、会議規則第7条第1項第3号に該当するため、非公開としたいと思うが、委員の皆様、いかがか。 よろしいか。
全委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈承認〉 ○ それでは、日程第4の報告第17号は非公開とさせていただきます。

傍聴の状況		
報 一	道 般	1名 0名

令和4年10月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	令和4年10月25日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	14時51分	
	閉 会	14時55分	
3 出席委員	教 育 長	三 宅 泰 司	
	委 員	河 内 智 美	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	上 西 芳 樹	
	委 員	片 山 美 香	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	後 河 正 浩	教育次長	奥 橋 健 介
次長（教育総務部長兼務）	疋 田 洋 一	学校教育部長	谷 岡 哲 郎
生涯学習部長	道 広 浩 章	教育企画総務課長	寺 坂 芳 子
保健体育課課長補佐	長 谷 井 利 之		
事務局 （教育企画総務課課長補佐）	井 本 浩 行	事務局 （教育企画総務課主任）	大 原 順 子
5 議題及び結果			
報告 第17号	私有自動車の破損に係る和解及び損害賠償の額を定めることへの 同意について		承認